



議会だより



いよいよ開校 関川小学校

- 12月定例会 …………… 2～3 ページ
- 一般質問 …………… 4～5 ページ
- 管外視察報告 …………… 6～7 ページ
- 村民の声 …………… 8 ページ

発行 … 新潟県関川村議会

〒959-3292

新潟県岩船郡関川村大字下関912番地

TEL 0254-64-1494 FAX 0254-64-3006

責任者 … 議長 高橋 八男

編集 … 広報対策特別委員会

委員長 … 平田ゆかり

副委員長 … 須貝 謙一

委員 … 伊藤	理助・津野	庄衛
大沼	久夫・近	良平

議会だよりは村のホームページでもご覧になれます。

URL <http://www.vill.sekikawa.niigata.jp/>

12月定例会

補正予算

一般会計 6480万円を追加

一 般 会 計		
議 会 費	報酬 他	100万4千円
総 務 費	地域振興費、村長選挙費、防犯対策費 他	284万5千円
民 生 費	介護保険会計繰出金、医療給付費 他	156万7千円
衛 生 費	環境衛生総務費(ゴミ袋印刷費) 他	468万8千円
農 業 水 産 業 費	林道整備事業(蛇喰中束線)、畜産団地給水ポンプ 他	2954万 円
商 工 労 働 費	職員給与 他	2万 円
土 木 費	下水道整備費、住宅管理費 他	142万2千円
消 防 費	常備消防費、全国瞬時警報システム整備事業 他	1531万2千円
教 育 費	奨学金基金管理費、村民会館工事請負費 他	1045万 円

特 別 会 計		
関 川 診 療 所	消耗品費 他	100万 円
介 護 保 険	介護サービス費、特定入所者介護サービス費 他	7240万 円
村 有 温 泉	温泉施設管理費(修繕料)	70万 円
公 共 下 水 道	下水道管理費	1400万 円

平成二十一年第九回関川村議会が九日間の会期（十一月二十六日から十二月四日）で開催され、初日三名の議員が一般質問し村長の答弁を求めました。承認一件、議案十五件、同意三件、いずれも原案通り承認、可決、同意しました。

又請願一件、陳情一件を採択しました。発委案二件可決し関係機関に提出しました。

専決処分を承認

新型インフルエンザワクチン接種費用の助成に歳入歳出それぞれに七百三十万円を追加。

条例の一部を改正する条例

村議会議員の議員報酬及び費用弁償等を減額。特別職の給与を減額。一般職員の給与を減額。技能労務職員の給与を減額。

を改正する。

工事請負契約

関川小学校新築電設工事

【契約方法】 指名競争入札
【請負金額】 五千八百二十七万五千円

【契約の相手方】 鈴木建株式会社
代表取締役 鈴木正昭

工事変更請負契約

森林管理道蛇喰中束線開設工事

【変更前の請負金額】 一億九百二十万円
【変更後の請負金額】 一億一千五百三十七万一千九百円

【変更契約による増額】 六百十七万一千九百円

【契約の相手方】 株式会社 渡辺組

代表取締役 渡辺秋美
関小学校新築電気設備工事

【変更前の請負金額】 一億三千百十万三千元
【変更後の請負金額】 一億三千三百三十八万七千八百円

【変更契約による増額】 二百二十八万四千八百円

【契約の相手方】 ユアテック・加賀屋特定共同企業体

【代表者及び構成員】 株式会社 ユアテック
村上営業所 社長 横山久雄
有限会社 加賀屋電気 代表取締役 小池正司

財産の取得

庁用車（マイクロバス）購入事業

【車種及び規格】 トヨタ コースターEX
6AT

【契約方法】 二十九人乗り

指名競争入札

【契約金額】 八百八万五千元
【契約の相手方】 有限会社 関川自動車

代表取締役 高橋富美
平成二十一年度学校情報通信技術環境整備事業校務用コンピュータ整備

【機種及び規格】 校務用コンピュータ一式

【数量】 教師用ノートパソコン 三十七台
校務用デスクトップパソコン 一台
付属品 一式

【契約方法】 指名競争入札

【契約金額】 三百四十六万五千元
【契約の相手方】 合資会社 ほんぼ

代表取締役 本保 研

人事（同意）

関川村教育委員会委員 須貝 誠（高田）
関川村固定資産評価審査

委員会委員

渡辺 清（上関）
佐藤隆平（朴坂）

請願

村道湯沢沢線の沢集落内危険部分の拡幅改良工事の早期実現を求め。

【請願者】 沢集落区長 渡辺達英
採択しました。

請願

これまでのEPA・FTA推進路線を見直すとともにアメリカとのFTA交渉は行わないことを求める。

【陳情者】 農民運動新潟県連合会 代表者 町田 擴

採択し関係機関に提出しました。

意見書の提出

電源立地地域対策交付金制度の交付期間延長を求め関係機関に提出しました。

質 問



津野 庄衛 議員

村政八年の総括と今後の取り組みは 厳しく受け止め、未来への安定した村づくりを

議員 村政八年の総括(自己評価)と今後の村政への取り組みについて伺う。

- 一、過疎化・人口減少への対策
 - 二、農業対策
 - 三、福祉対策
 - 四、教育・文化・観光対策
 - 五、産業振興対策
- 村長** 自立の村づくりを選択して全

国に向けてPR、発信したこと。次に、色々な分野で基礎づくりをしました。

定住対策では、教員住宅を改修して一般の人も利用できるようにしました。

茶の間、一人暮らしのケア等ボランティアの方々の協力により実施しています。

今後は、未来に向かって安定した村づくりに取り組みます。資源の活用による農業・観光の活性化。地域の連携による村づくりと学校統合後の地域力の向上に努めます。子育てしやすい環境づくりにより人口減少に歯止めをかけたい。評価は村民がするものと考えます。自己評価については、満足しては進展がないので厳しく受けとめています。

一、企業誘致、子育てを含む福祉対策、定住対策等実施してきました。企業誘致については経済情勢の関係で実績は上がっていません。畜産関係の企業でも、地域周辺の関係から成立しませんでした。

二、農業対策 「農地・水・環境保全向上事業」等を進め、地域の連携を深めました。土地改良区の加入促進を勧め二十五%の加入率を五十%まで向上させました。

四、教育・文化・観光対策 教育面では関川中学校の開校、来春には関川小学校が開校されます。道の駅周辺の再整備、「堀と柳とせせらぎ通り」の完成を機に観光客の誘致を図っています。

五、商工会への支援としてプレミアム券の発売があります。高齢者に対して、地域の



渡辺 秀雄 議員

ふるさと納税制度について ホームページ等でPR 総額約二三五万円

議員 昨年の五月から導入されたふるさと納税制度について本村でも寄

附金の受け皿となる「関川村ふるさと応援基金」を創設し、ホームページ等でもPRしていますが、その効

果は期待できるものか伺う。

在住の方からの一件で百万円の寄附を除くと、そのほとんどが県外在住で約四十分が「いで湯の関川ふるさ

と会」、約三十%が関川村人会の会員からです。寄附された方々が村の役に立ちたいと云う気持は金額以

般

↓上の価値がある
と思います。

議員 自主財源の
少ない村の収入を
増やす為にもPR
の強化と工夫を図
ってもらいたい。

村長 「いで湯の
関川ふる里会」、「村
人会」等総会時に



山口和夫 議員

議員 村長の任期
がわずかですので、
確認の意味で質問
する。

沼の土地賃貸契
約について、議
会に黒塗りの契
約書を提出した
理由。

当初の二十年間
の契約書と五年
間の契約書との
合意書を含めた
関係。

案内を渡しています。更に
PRの強化を図り収入増に
つなげていきます。

議員 公共下水道は平成二
十年で管渠埋設工事が全
て完了し、村内全域で供用
が可能となりましたが昨年
度末で加入率が六十一・八
%と依然として低い状況で
す。今後は維持管理費等も

増大することが予想される
ことから、加入率を上げる
ための施策を伺う。

村長 村では供用開始後三
年未満の地域に加入促進に
ついてのパンフレットの配
布等を行い、又供用開始後
三年以上の加入していない
世帯には職員による個別訪
問で加入をお願いしてきま

した。今後の対策として、
どのような理由で加入して
いただけなのか、どのよ
うな対策や便宜を供与した
ら加入していただけるのか
先ず意向調査を行いたい
と思っています。

議員 県内で下水道加入率
でトップは柏崎市の九六、
一%ですが職員が定期的

未加入世帯を訪問し、公共
下水道の趣旨と加入して頂
くと「このような効果」も
あるとわかりやすく説明し
加入率を上げているよう
です。

建設環境課長 今年度も一
月から三ヶ月間個別訪問し
たいと考えています。

わかぶな高原スキー場諸問題について 議員全員で確認

村民が特別違反行為を
していないのに仮処分
裁判に提起することが
正しかったか。

村長 わかぶな高原スキ
ー場にかかわる質問である
と思いますので、その観
点からお答えします。

黒塗りにした契約書は
正本のコピー。正本に
つきましては、平成十
九年九月の村会議で秘
密会にして議員全員に
確認をいただき決議を

して実施しています。
前の契約書の期限が満
了になりましたので、
新たに契約を締結した
のが今の契約書です。

平成十九年十月と十一
月に、スキー場に通じ
る道路を一部の地権者
が封鎖したために裁判
所に仮処分の申請を行い、
裁判所が仮処分を決定
し道路封鎖が解除され
ました。訴訟を提起す
るに当たっては議会の

議決を経て実施して
おります。
議員 住所氏名があつて
初めて契約書が成立する。
なぜ名前を隠さなければ
ならないのか。また、新
しい五年間の契約書の中
には、「地元との話し合い、
現状を回復する」につい
て一項もないが、なくて
もいいのか。

村長 契約書の黒塗りの
部分の理由につきましては、
情報公開の決まりに従い

まして伏せざるを得なかつ
たのです。地権者との話
合いが必要ではないかと
いうことですが、それは
条文の中に「両者がいる
いる合意する」という文
章がありますのでそれが
すなわち話し合いであると
いうふうに私は考えてお
ります。

研修報告

平成21年11月19日

産業建設常任委員会

農事組合法人みます元気村

産業建設

鶴岡市の北東にあり、農家総数六戸を構成員として水稲・大豆・野菜などの生産販売を行っている。構成員七名、うち三名常勤。自分達の土地は自分達で守ることを理念として、自然との共生、専業・兼業双



方のメリットを考える、地域との共生を基本に進めている。

経営の成果や集落営農のメリットとしては、圃場の固定化、協同作業、水の一元化、一定の品質管理、農協や市など関係機関から多面的な支援を受けられたことであった。その結果、集落の農地・農業を維持していく土台を作ることができた。

今後は事業利益をいかに出していか、生産・加工・流通・販売それぞれの段階で時代のニーズに合わせ、経営と後継者の育成に取組んでいく。

まとめ

高齢化、圃場整備の遅れ、米価の下落、生産資材価格の上昇など、農業を取り巻く状況は大きく変化しており、

安定した経営が難しくなってきた。そして、農地があっても担い手がいないようでは自分の農地を守っていくことはできない。当村でも農業者は自分の

株式会社 平田牧場

産業建設



本社は酒田市。二頭の豚から始まり、四十年間で直営・グループ生産者を合わせると約二十万頭を出荷できるまでになった。現在は品種開発で「平牧三元豚」を主体に三種の特産豚を飼育している。

次世代のためにも食物は輸入に頼らず、できる限り自給することを目指し、「安全・健康・環境」を美味しさとともに提供する努力を続けている。業務内容：畜肉生産・加工・販売・外食など。従業員：約八二〇名

売上高：平成二十年三ヶ月期七億円、グループ全体二二八億円。

稲作農家と連携し減反田に作付けした飼料用米を飼料とし、堆肥をリサイクルする資源循環型豚肉生産の取り組みを平成二十年から始めた。今後は全ての豚を飼料用米で育成する予定。米育ち豚はさっぱりとして非常に美味しいと評判を得ている。

飼料用米の価格は、今のところ補助金があれば安定した栽培までには達しておらず、生産者が赤字となった場合は会社が負担して生産を続けてもらっている。

現在、飼料用米の生産は遊佐町や酒田市では三二〇ha、全国でも一、六〇〇haと広がってきている。日本の農業が抱える生産調整や耕作放棄地、穀物の自給率向上に寄与していきたいと願うものであり、環境保全型農業の試みとして庄内地方で進めている。

先進地視察

平成21年11月20日

総務厚生常任委員会

農地を守るうと、自分ができるところまでは自分で行う考えが定着していることや担い手の高齢化も組織的な集落営農を敬遠する要因となっている。これからの農業は、農業者が主体とな

り技術や知識を養い、自営力を高め、労力を分散するなど総合的な農業を目指すことが必要であり、当村も前向きな考えで共同作業を進め、農地を守っていくべきだと感じた。

角川里の自然環境学校

総務厚生

戸沢村は山形県内陸北部に位置し、最上川が流れ出羽丘陵の山々と新庄盆地縁辺の平坦地から形成されている。

人口五、六八〇人

世帯数一、六六八世帯

総面積二六一・一五k²m

角川里の自然環境学校は、農山村に息づく自然や文化を次世代に伝えながら、新しい農山村のライフスタイルや地域づくりを進めていくと、村の南部、角川地区の住民の有志で設立された地域運営学校である。

主な活動は、環境教育や



文化伝承で、里の自然と文化を体験し学ぶプログラム

まとめ

企業としての努力が感じられた。食品の多様化、若者の米離れ、輸入米との関係などがあるため、米の生産が制限されている現在、

飼料用米など日本の米が活躍する場が広がりを見せていることがわかった。安全な食糧を維持していくためには、当村でも将来に向けた農業への取り組みが必要であると感じました。

メニューを提供してる(山菜採り、源流探検、カンジキハイキングなど)。

宿泊は農家にホームステイ。受入れた者は里親と呼ばれ体験学習などのサポートも行っている。

体験者は、昨年度約三、

五〇〇人。今後は四、〇〇〇人の受入れと、地元の若者を三人雇用すること、担

い手づくり・農産物生産・産品開発・交流人口を軸としてコミュニティビジネスへ展開させることを目指している。

まとめ

戸沢村は人口や面積、環境的にも当村と相似する点が多く、教育の取り組みに村の資源を活用することにについては参考とすべき点であった。

また、今年度で国の補助金がなくなるため、民間財

団の支援事業の活用を検討していることは、発想としても注目したい。

子供の育成には地域で取り組む姿勢あり、行政の協力はあるものの地域住民の活力を感じた。教育を重視している当村としては、見習うべきことが多いものと思われる。

村民の声

がちゅに笑day!!



おおぬまはるか
大沼陽花さん
(上土沢)

九月のはじめ、携帯に留守番メッセージが入っていました。

「ふるさときゃらばんの浅野です。」

この電話が全ての始まり。劇団ふるさときゃらばんは東京を拠点に全国各地でミュージカル公演を行っている劇団で、「人の住む所ならどこでも舞台は出来る」と関川村にも何度か劇場をつくっています。

今回の公演にあたって、実行委員の中で「関川村青年隊」が結成されました。それは中学時代の同級生で、今年度二十二歳になる三人のグループです。不思議な巡り合わせなのか、ふるさときゃらばんが関川村で一番最初にミュージカル公演をしたのが二十二年前だったそうです。

当日を迎えるまでには、本当に大変でした。何度も実行委員会を行い、色々な事を決める。そして何と云ってもチケット販売。なかなか枚数が伸びず苦労しました。

当日、朝から舞台を仕込みます。劇団を応援している方々も駆けつけて下さり、少しずつ劇場が出来ていきます。

開場がはしまってから続々とお客さんがやってきます。お世話になった先生やなつかしい友達の顔もみえます。コンサートが始まった瞬間、涙が次から次へと溢れてきました。

「橋をかけよう」という曲があります。その曲は、神林桃川出身の役者・内山美穂さんが実行委員会で、「川で苦しんだ村の方々にぜひ聞いて欲しい」とおっしゃった曲です。この曲を客席の後ろで聞きながら青年隊が関川村を元気にするかけ橋になれたら！と強く感じました。

コンサート後のロビーで役者さんたちと握手をするお客さんの笑顔で心にあつたものが込みあげ、また涙が溢れました。

新議員紹介



伝 信男議員
(大島)

表彰

全国町村議会議長会から永年の町村議会議員としての功績を称え、特別表彰されました。



山口好郎議員 山口和夫議員

編集後記

甲子園で活躍した伊藤直輝君、若林尚希君の関川村褒章授与式。両選手のご両親の慈愛に満ちたまなざしが印象に残っています。おおいに褒めて励まし、時には厳しい姿勢で我が子の心を受け止めてきたことでしょうか。

今年に関川小学校が開校します。新校舎は明るく広々。村の木材をふんだんに利用したやわらかな空間。誰もが利用しやすいユニバーサルデザイン。未来ある子どもたちの居場所にふさわしい。

竣工式。天を仰ぐように校舎を見上げながら、ここに集う子どもたちが豊かな人間関係を築き、自分らしく生きてゆけるようにと願いました。そして、あの日のご両親のようなまなざしをもって、子どもたちの人生を応援し続ける大人でありたいとも。

(平田ゆ)

